

**継続的に環境保全に取り組むために、
環境保全と利益創出を同時に実現していく。
これがリコーグループの環境経営です。**

環境経営の重要性

リコーグループの環境への取り組みを振り返ってみると、最初に法規制やお客様からのニーズにお応えするための「環境対応」の時代がありました。やがて地球市民として自ら高い目標を設定して環境負荷の削減に取り組む「環境保全」の時代を迎えます。そして今、私たちは環境と経済を同軸のものとして捉え、環境保全と利益創出を同時に実現する「環境経営」を目指しています。リコーグループは、環境保全を未来永劫の取り組みとして考え、経済活動全体の環境負荷を自然の回復力の範囲内に留めることを目標に、継続性を重視した活動に取り組んで来ました。企業として存続し、継続的な環境保全を進めて行くには、活動を通じて利益を創出して行くことが重要です。リコーグループは、経営のあらゆる側面に環境の視点を取り入れて*継続的な事業改善を図ると共に、2002年度から2004年度までの新たな計画として、「環境保全と利益創出の同時実現により、世界一の環境経営が実現されていること」「環境技術の開発により、リコーの製品、ビジネスプロセスが際立っていること」をトップデザインとしました。

* 20ページを参照。

リコーグループの環境負荷の認識

すべての経済活動を自然の回復力の範囲内に留めるという視点に立つと、これからの経済を考える時、大きな前提条件が加わったことに気がきます。その前提条件とは、「自然環境の再生能力の範囲内で資源を使う」「自然環境の再生能力の範囲内に廃棄物を抑える」「自然環境の再生能力の範囲内に温暖化ガスを抑える」ことです。リコーグループは、事業活動全体

の環境負荷をエコバランス*によって把握すると共に、右ページの図のように「省資源・リサイクル」「省エネルギー」「汚染予防」を環境保全活動の大きな領域とし、製品および事業所、それぞれの分野での取り組みを進めています。

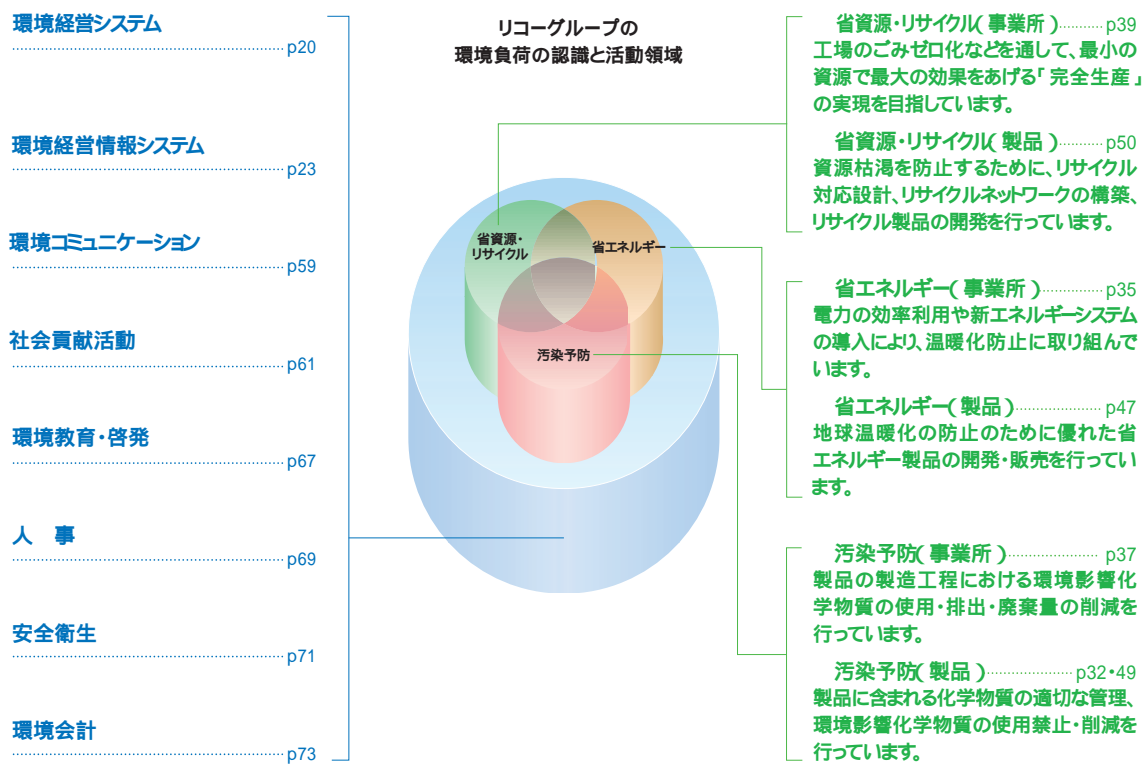
*25ページを参照。

リコーグループの環境経営の手法

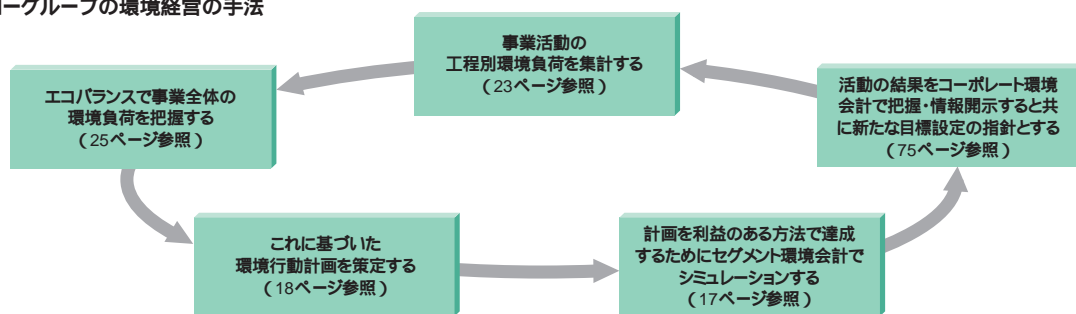
環境負荷の削減を継続的に行うためには、活動を通じて利益を創出する必要があります。リコーグループは、事業活動全体の環境負荷の認識に基づき、工程別の環境負荷を把握し、環境負荷削減と利益創出を同時に実現していくための手法として、右のチャートのような、独自の手法を構築しました。私たちは、この手法に基づいて環境経営の実現を目指すと共に、環境経営実現のためのツールとしての「環境経営情報システム*1」や環境経営の進捗・達成度を評価するものさしとなる「環境会計*2」を進化させて行きます。また、活動そのもののレベルアップを図るために、省エネ技術やリサイクル対応設計、ペーパーレス化など「環境技術*3」の進化や、環境教育、環境ボランティアリーダーの養成、ごみゼロ活動の推進などによる「社員の意識啓発*4」にも積極的に取り組んでいます。

*1 23ページを参照。 *2 17、36、40、48、50、73ページを参照。

*3 31、47ページを参照。 *4 39、63、67ページを参照。



リコーグループの環境経営の手法



2001年度の成果の概要

リコー独自の省エネ技術やリサイクル対応設計を採用したデジタル複合機「imagic Neo350/450(Aficio 1035/1045)シリーズ」を2000年度に発売し、2001年度は、この技術を販売台数の多い中低速機「imagic Neo220/270(Aficio 1022/1027)*1」に搭載して発売しました。日本および欧米市場の環境意識の高まり*2あり、多くのお客様に導入されると共に、社会全体の

環境負荷の削減にも貢献しました。*2 事業所の活動では、日本・欧米極に続き、中華極の工場でもごみゼロを達成*3し、環境負荷の削減と共に、経営体質の改善を図りました。また、自然の回復力を高めて行く「森林生態系保全プロジェクト*4」や、環境ボランティアリーダーによる活動*5も拡大しています。

*1 32,47ページを参照。 *2 48ページを参照。 *3 40ページを参照。
*4 61ページを参照。 *5 63ページを参照。